

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2729700029		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家大正		
所在地	〒551-0012		
自己評価作成日	令和4年1月6日	評価結果市町村受理日	令和4年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和4年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アーケードのある商店街の中にある施設があり商店などもある為、入居者様と買い物や散歩など気分転換をして頂きやすい環境がある。近くには大きな公園もあり、春には桜、秋には紅葉やイチョウなど四季を感じていただくことが出来る。又、商店街の方々のご理解もあり商店街の行事への参加や地域の町おこしのイベント等に参加することによって一緒に地域を盛り上げております。又、コロナ下で外出制限がかかっている際でも施設内での催しや毎月のイベントを行い、お写真などをご家族様や運営推進会議などに添付することで地域の方々にも施設の情報を発信している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商店街の中に位置し、近隣に四季折々の樹々が楽しめる広い公園や小学校があり、日常的に散歩・買い物・地域交流しやすい環境に恵まれている。コロナ禍のため外出や交流を休止しているが、朝昼夕の体操・季節の制作・歌・塗り絵・パズル・脳トレ・家事参加等、日常生活の中で楽しみながら心身の機能低下予防ができるよう取り組んでいる。毎月季節行事を行い、イベントやイベント食が楽しめる企画もある。毎月「連絡帳」、写真、「バイタルチェック表」を、2ヶ月に1回運営推進会議議事録を家族に郵送し、利用者や事業所の様子を伝えている。オンライン研修で研修機会を確保し、毎月のフロア会議の実施、人事考課制度等、職員の資質向上と連携に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

評価部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	株式会社ケア21はマネージャー以上を経営理念の伝道師として内容の共有、理解を深める取り組みを実地している。施設では毎朝経営理念の読み合わせを行っている。	法人の「経営理念」、事業所の「年間ビジョン」を作成し、事業所の「年間ビジョン」の中に地域密着型サービスの意義を明示している。「年間ビジョン」を1階の事務所に掲示し、毎朝「経営理念」と共に読み合わせを行い共有を図っている。フロア会議の中でビジョンに立ち戻って実践につなげ、年度末のフロア会議では実践状況の振り返りを行い、次年度のビジョンに反映できるよう取り組んでいる。	フロア会議でのビジョンに基づいた検討や振り返りを議事録に残し、ビジョンの実践に向け具体的に取組まれることが望まれます。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日用品や食材等街の小テインで購入し交流を図っている。玄関前に一休みしていただけるスペースもあり、地域の方々と交流しやすい。又、商店街イベントの積極的な参加、スペースの交流、組合にも参加している。	商店街の中にあるため、商店街組合に加入し、商店街から運営推進会議の構成委員として参加があり、協力を得やすい環境である。通常は、利用者が商店街に買い物に出かけ、地域包括支援センター主催の町おこしイベント、商店街のイベント、地域の夏祭り等に参加し、音楽ボランティアの来訪、近隣の小学生との交流等、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう取り組んでいる。コロナ禍のため、交流や外出を休止しているが、事業所の食材や日用品の買い物、運営推進会議議事録の郵送等、可能な方法でつながりが継続できるよう取り組んでいる。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	商店街の方などボランティアの受け入れを行っている。ただ近年コロナウィルスの流行の兼ね合いもあり施設内への出入を制限している。		

グループホーム たのしい家大正

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様より頂いた意見を施設内会議の議題にあげ共有、ケアの改善に努めている。又、事故やヒヤリハットの提出状況を報告し施設全体で発生している情報を共有し危険予測訓練を実地し予測し対応が出来るよう努めている。	利用者・家族・地域包括支援センター・地域代表(商店街店舗2軒)を構成委員として、2ヶ月に1回開催している。コロナ禍のため、集合開催は休止し、全家族を含む構成委員に議事録を郵送し、事業所の状況(利用者・職員・事故ヒヤリハット事例・研修・行事・事業所の課題・身体拘束適正化委員会等)を詳細に報告している。返信用紙を同封し、意見・質問・情報等の返信が受けられるようにしている。玄関に回覧ファイルを設置し、議事録を公開している。	構成委員として知見者の参加が得られるよう、取り組まれることが望まれます。また、返信された返信用紙はファイルされているが、次回の議事録で共有する等、書面開催でも意見・情報交換できるよう工夫されてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	集団指導、事故報告、運営推進会議報告、区役所にパンフレットを置いていただいている。	運営推進会議を通して地域包括支援センターと連携している。区の支援課と協働し、福祉的支援を要する利用者支援を行っている。報告や相談の事案がある場合は、内容に応じて、市や区の担当課に主に電話で報告・相談を行い、適正な運営につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1回の身体拘束適正化委員会を実地。施設内でも共有。ご家族様への報告を行っている。	「身体拘束適正化のための指針」を整備している。管理者・副主任・介護支援専門員・介護職員を委員とし、主治医を外務委員として、3ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会を実施している。事例がある場合は、主治医の所見(聴き取り)をもとに解除に向けた検討を行い、解除後は、解除後の状況確認やセンサーの適正使用について等、適正化に向けた検討を行っている。委員会の内容は運営推進会議でも報告している。法人の年間研修計画に沿ったオンライン研修で、年に2回「人権及び虐待・身体拘束防止研修」を実施し、報告書の提出により受講を確認している。玄関は施錠しているが、フロアの入り口・エレベーターは施錠せず、利用者に外出の希望があれば職員が対応し、閉塞感を感じないよう配慮している。	委員会の内容は、議事録の回覧やフロア会議で周知を図っているが、押印やフロア会議議事録への記録等、周知が明確になる工夫が望まれます。また、委員会ではスピーチロックについての検討も行ってはどうか。

グループホーム たのしい家大正

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	株式会社ケア21では年に2回の虐待防止研修を実地。施設内でも随時会議内等で話し合いを行っている。又、研修内にて個別アンケートを実地している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて理解を深め、必要に応じて支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に納得をして頂けるまでご説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やアンケート、施設に来所された際又、お電話などでお伺いした意見内容を把握し、運営に反映している。	家族の来所時、電話連絡時等に近況を伝え、意見・要望の把握に努めている。毎月「連絡帳」(利用者担当職員が利用者個々の様子を伝える)、写真、「バイタルチェック表」(訪問看護師が健康状態を伝える)を、2ヶ月に1回運営推進会議議事録(利用者や事業所の状況や取り組み伝える)を郵送し、意見・要望を出しやすいように取り組んでいる。法人が年に1回実施する満足度アンケートの集計結果も、家族の意見として反映している。面会・外出に関する要望があり、状況を勘案しながら可能な方法で徐々に再開していく予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内で業務改善を提案する機会が設けられており、結果を共有し実践に繋げている。	月に1回各フロアでフロア会議を行い、全利用者について情報共有や検討、行事・業務・事故ヒヤリハット事例についての検討を行い、職員の意見・提案を反映できるよう取り組んでいる。定期的には年に1回管理者が面談を行い、随時には管理者や副主任が窓口となり、職員の意見・提案を個別に聴く機会も設けている。従業員満足度アンケート(年1回)、「業務改善提案書」等、法人に意見・提案を伝える仕組みもある。	

グループホーム たのしい家大正

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	誰伸び制度という人事考課制度にて職員の努力や実績を把握し給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1回自己評価を実施し目標の達成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワークに参加し取組・報告等意見、情報交換などを行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントや診断書をスタッフ間で共有し、安心して頂けるようなコミュニケーションを図っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の見学時やアセスメント時に不安なことを確認し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント後に行う判定会議で注意点を話し合いプランに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存尿力の維持を大切にし、日常生活動作を主とし、一緒に生活をする事で時間を共有している。		

グループホーム たのしい家大正

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	その方に合わせた面会などを依頼しており ご家族様と入居者様の関係をフォローして います。又、現在では面会制限がある為、 お電話などでの情報の提供を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の病院や、近隣のお店など継 続できるものは支援しています。又、入居 者様のご友人の方などのご面会もありま す。	通常は、家族・友人等の面会時に居室や相 談室でゆっくり過ごせるよう配慮し、また、商 店街の店舗の利用や、商店街のイベントや 地域行事への参加等、馴染みの人や場所と の関係継続を支援している。コロナ禍のため 外出や交流を休止しているが、オンライン面 会や電話、年賀状の作成等、可能な方法で 関係継続を支援している。また、時期や方法 を勘案しながら、家族の面会や散歩等を徐々 に再開する予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	入居者様間でのコミュニケーションを円滑 に行える様常日頃よりその方にあつた声掛 けを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関りが必要な場合、相談や支援を しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご本人様から希望が伝えられない場合でも 表情の変化や態度から入居者様の気持ち をくみ取れるよう支援します。	入居時は、「フェイスシート」の「生活歴」「趣 味・嗜好」「家族・本人の主訴や要望」欄の記 載をもとに、利用者の思いや暮らし方の希望 等の把握に努めている。入居後の会話等 の中で聴き取った情報は「介護記録」やフロア 会議で共有し、「フェイスシート」も定期的に 更新している。把握した内容は、編み物や習 字等の趣味や得意の継続等、支援やサービ ス計画に反映できるよう取り組んでいる。把 握が困難な場合は、以前の情報や家族から の意見・情報を参考にしたり、表情や態度か ら汲み取れるよう努めている。	

グループホーム たのしい家大正

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況などに関してはアセスメント時に聞き取りを行い、施設内職員での情報の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・カンファレンス等で情報の共有を行いそれを基に訪問看護、往診時に心身の状態把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族様の希望にあわせカンファレンスを行いケアプランに反映しています。	「フェイスシート」「ケアチェック表」を基に初回の施設サービス計画書を作成している。初回は1ヶ月後に、その後は、定期的には6ヶ月毎に、変化があれば随時に計画の見直しを行っている。サービスの実施状況は、システム内の介護記録と各種記録(排泄・入浴等)に記録している。介護記録は、項目欄を活用し、計画に基づいた実施記録になるよう意識付けを行っている。毎月のフロア会議で、利用者個々の情報共有や必要等な検討を行っている。3ヶ月毎に「評価表」によるモニタリングを行い、6ヶ月毎に「評価表」によるモニタリング・「ケアチェック表」による再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開催して計画の見直しを行っている。計画の見直しの際は、「フェイスシート」も更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・ケアプラン・アセスメントシートなどを活用し介護記録の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時、お電話、お送りしているお手紙などで近況の報告、日頃の変化がないかを伝えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の取り組みへの参加、商店街での交流。ボランティアの受け入れにてかわりを持つよう努めています。		

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関の説明は行っているが、昔からの馴染みのある病院がある場合は、ご家族様に選択していただいています。	入居時に協力医療機関について説明し、利用者・家族の意向を確認し、希望に沿った受診支援を行っている。希望があれば入居前からのかかりつけ医を継続することも可能である。協力医療機関から内科・精神科・歯科の往診が受けられる体制がある。週に1回訪問看護の訪問があり、健康管理や主治医との連携を行っている。他科については、家族が同行する通院での受診となり、主治医が紹介状で情報提供している。受診(往診・通院)の記録は「介護記録」「支援経過記録」に記録している。訪問看護は「バイタルチェック表」に記録し、必要時は介護記録にも記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護に来ており健康状態のチェック。その際に気になる事があれば相談している。協力医療機関も24時間オンコール可能の為、特変、急変時などのサポート体制も整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者やご家族様と連携を密にし、必要に応じてカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応に係わる指針について説明し同意を得ている。重度化した場合には医師とご家族様と事業所で話し合いを重ね、個々に合った対応を行っている。	契約時に「重度化対応・終末期ケア対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。重度化を迎えた段階で、医師・家族・事業所でカンファレンスを行い、医師が状況を説明し、家族の意向を確認している。家族に看取り介護の希望があれば、主治医・事業所が「看取り介護の同意書」で同意を得ている。看取りに向けた「介護計画」を作成し、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。経過については、「介護記録」と「支援経過記録」に記録している。年間研修計画の中で、「看取り研修」を実施している。	

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルがあり、施設内で周知している。又、消防で実施している救命講習にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。2回の内1回は夜間想定で実施を行っている。訓練時には近隣の消防署職員の方々に立ち会って頂いている。	年2回、災害時の避難訓練を実施している。今期は、11月に、消防署立会いの下、昼間想定で、利用者も参加して、通報・避難・消火(水消火器使用)の総合訓練を実施している。実施後は、「消防訓練報告書」に訓練内容・感想・今後の課題等を記録している。今期に、夜間想定での避難訓練実施を予定している。運営推進会議の構成委員を中心に、商店街と協力体制を築いている。今期は研修計画に入れ、業務継続講義・訓練も実施予定である。備蓄については、法人支給の備蓄品と事業所管理の備蓄品を保管している。	「消防訓練報告書」の回覧等を行い、訓練に参加できなかった職員も含め、災害時の対応方法を全職員に周知することが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活状況を把握し、人格を尊重しながら声掛けを行っている。	上記と同様のオンライン研修で、「人権」「認知症ケア」「コンプライアンス」「接遇マナー」等の研修を実施し、利用者尊重やプライバシー保護について学ぶ機会を設けている。誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応については、フロア会議の中でも管理者が注意喚起している。個人ファイル類はスタッフルームの鍵のかかる棚に保管している。写真の使用については、契約時に文書で同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望を取り入れ、自己決定が困難な方は日頃の会話、表情で汲み取るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活リズムを大切にしながらも出来るだけ希望に沿った生活をして頂けるよう支援しています。		

グループホーム たのしい家大正

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の協力を得ながら、その人らしいおしゃれが出来るように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の能力に応じた盛り付け等食事準備を職員と共に行っている。	委託業者から献立と食材が届き、各フロアで調理し手作りの食事を提供している。利用者個々に合わせた食事形態にも対応している。可能な利用者が盛り付けや後片付けに参加できるよう支援している。年間行事に合わせて、流しそうめん・スイカ割り・焼き肉パーティ・鍋パーティ・クリスマス会等のイベント企画があり利用者が季節感や食事の変化を楽しめるよう取組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態に合わせた形態で提供を行い、必要なケアを支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自身で磨いて頂き、磨き残しがないかの確認を行っています。又、訪問歯科が来られた際には指導していただきケアに繋げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個別の状況に合わせた時間で声掛けや誘導を行っている。	タブレット内の排泄記録で、利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握している。日中は、個別に声かけ誘導を行い、二人介助でも対応しながら、トイレでの排泄を支援している。夜間は、安眠と安全を考慮し利用者個々に応じた介助方法で支援している。介助方法や排泄用品の使用について検討事項があれば、主にフロア会議で検討し現状に適した支援につなげている。原則同性介助を行う、トイレのドアを閉める、タオルを使用する等、プライバシーへの配慮の周知を図っている。	

グループホーム たのしい家大正

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて個々の排便状況を把握し、内服薬に排便コントロールを心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回を基本としているが、必要に応じてその他の日も入浴を楽しんで頂いている。	週2回、個浴槽での入浴を基本とし、利用者の体調や希望に応じて、日時や回数等の対応を柔軟に行っている。身体状況に応じて、2人介助・シャワー浴・足浴でも対応している。同性介助を基本とし、入浴拒否があれば声かけやタイミングを工夫し、個別の配慮で対応している。一人ずつ湯を入れ替え、好みの音楽をかけたり、しょうぶ湯・ゆず湯・入浴剤の使用等、入浴を楽しむ工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室に戻れる環境を作っているが、生活リズムが狂わないよう注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個々のファイルにて管理しており副作用に注意しなければならないことも記載している。薬の変更などがあればその都度更新している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内でのレクリエーションや家事、飾り作りなどそれぞれ状況に応じた支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は気分転換を図れるように毎日外出が行える様環境作りに努めていたが、現在はコロナウィルスの流行もあり玄関先などでの気分転換を行っています。	通常は、散歩や買い物で、ほぼ毎日、商店街や地域に出かけている。年間行事として初詣・花見・地域イベント・紅葉狩りに出かけた後、外出イベントとして家族同行の水族館やホテルバイキングへの外出も行っている。コロナ禍のため外出を休止しているが、玄関先のベンチで外気浴を行ったり、人通りの少ない時間帯に近隣を散歩する等、気分転換を図れるよう工夫している。	

グループホーム たのしい家大正

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内でのお小遣いを管理し、外出時や趣味趣向品など使う機会を持てるよう務めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様、ご家族様共にご希望があればその都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の居室を少しでも馴染みのある部屋にするために表札や写真、レクリエーションで作って頂いた作品などを貼るようにしている。	共用スペースに、空気清浄機・加湿器を設置し、定期的な換気・消毒により、温湿度管理・衛生管理を行っている。テーブル席・椅子を設置し、生花や利用者と一緒に制作した季節や行事に応じた作品を飾り、季節感を感じながらくつろげる環境づくりに努めている。利用者全員が参加できる制作を工夫し、参加しながら季節感を感じたり会話ができるよう配慮している。食事の準備・後片付け、洗濯物たたみ等に参加し、生活感が感じられる場面作りを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内に椅子を置き、ちょっとしたスペースでもくつろいでいただけるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具やお写真などを持ってきていただくよう入居の際に依頼している。	居室にクローゼット・ベッド・緊急時用コールボタン・換気扇が設置されている。筆筒・椅子・テレビ等の使い慣れた家具や道具、家族の写真・人形等の馴染みのあるものが持ち込まれている。レクリエーションで制作した作品やイベント時の写真を飾ったり、楽器(大正琴)・本・編み物等の趣味のものも持ち込まれ、その人らしさが感じられる。居室前に表札と写真を掲示し、部屋間違いの防止に配慮している。居室担当の職員を設け、家族と連携しながら衣替えや環境整備を行っている。居室の掃除は、利用者と一緒にい自立支援に努めている。	

グループホーム たのしい家大正

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフ間で情報の共有し一人一人の支援に生かしている。		